

地理歴史科（日本史探究）学習指導案

- 1 履修単位数 4単位
2 実施日時 令和7年 月 日（ ） 第 時限
3 学級 ホームルーム（ ）名
4 使用教科書 高校日本史（山川出版社）
5 単元名 武家社会の成長
6 単元設定の理由

（1）生徒観

本クラスは、少人数で日本史学習に取り組む姿勢が前向きな生徒とそうでない生徒に分かれている。教科担任の説明を聞き、熱心に板書を書き写している生徒がいる一方で、興味関心を持たなかったり、小・中学校での学習内容を覚えていなかったりして学習についてくるのが難しい生徒もいる。また、授業内容に対し質問をする生徒はほとんど無く、受け身的な姿勢が強い。

（2）教材観

本単元は、南北朝の対立および室町幕府の機構と地方支配、室町時代の国際関係について取り扱う。前代の鎌倉時代と教科書の記載を比較することで、南北朝の対立を通じて変化した点、変わらなかった点について学ぶことを通じて、室町時代の特徴について理解させる。

（3）指導観

〇名という少人数ではあるが、基本的な歴史事項の名称や内容が定着できていないところがあるので、基礎・基本の内容を理解させるとともに、室町時代から江戸時代に向かうなかで、現代につながる日本がいかんにして形成されてきたかについて理解させる。

7 単元の目標

- （1）武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立などを基に、室町幕府の特徴や室町時代の国際関係について理解する。
（2）村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、室町時代の地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を考察させる。
（3）東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代のつながりから、この時期の日本の政治や社会の特質を見い出す態度を養う。

【単元の基軸となる問い】 室町時代の社会は、どのように形成されたか。

8 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・武家政権の変容や村落や都市の自立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。	・武家政権の変容や村落や都市の自立などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	・武家政権の変容や村落や都市の自立などに着目し、諸資料を活用して前後の時代のつながりから、この時期の政治や社会の特質を見出そうとしている。

9 指導と評価の計画 単元名 武家社会の成長 全8時間

- 第1次 室町幕府の成立 3時間（本時3／3）【知●、思○】
第2次 下剋上の社会 2時間【知●、態○】
第3次 室町文化 1時間【知●】
第4次 戦国の動乱 2時間【知●、思○】

	学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	態	
第1次	【単元の基軸となる問い】室町時代の社会は、どのように形成されたか。				
3時間	【第1次の問い】倭寇が発生した背景には、当時のどのような状況が影響しているか。				
★本時	・後醍醐天皇による鎌倉幕府打倒の動機と展開について理解する。	●			●後醍醐天皇による鎌倉幕府打倒に多くの武士が協力していることを理解している。
3	・建武の新政がなぜ失敗したか、また武士たちがどのような社会を望んだか理解する。	●			●建武の新政に対する武士の不満の原因を理解している。
3	・倭寇がなぜ朝鮮半島や中国沿岸地域を襲撃したか、自分の考えを表現する。	○			○倭寇とよばれる集団がどのような特徴を持っているか考察している。
3	・室町幕府の支配において、日明貿易の重要性について考察する。	○			○日明貿易とそれ以前の貿易との違いについて考察している。 (評価資料)：ワークシート、史料鑑賞
第2次	【第2次の問い】室町時代の民衆の行動は、どのような特徴を持っているか。				
2時間	・惣掟を読み、現代との共通点と相違点について自己の考えを発表する。			○	○惣村の住民の自治の強さについて考察している。
	・15世紀のさまざまな出来事に民衆がどのように関わり、影響を与えたか理解する。また、活発な経済活動を展開していた様子を理解する。	●			●個々の出来事の内容と民衆の与えた影響を理解している。 (評価資料)：ワークシート、史料読解
第3次	【第3次の問い】室町時代になぜ現代につながる文化が成立したか。				
1時間	・室町時代の文化が、中国の影響を強くうけた時期から、その影響を脱して現代の日本文化につながるものになることを理解する。	●			●文化の形成に際し、その文化の担い手がどのような階層の人々だったかを理解している。 (評価資料)：ワークシート、史料鑑賞
第4次	【第4次の問い】戦国大名はどのように権力の維持を図ったか。				
2時間	・それぞれの地方で、どのような戦国大名が支配を広げていったか理解する。	●			●それぞれの地方の主要な戦国大名の成り立ちについて理解している。
	・支配地を広げた戦国大名に共通する特徴について考察する。	○			○喧嘩両成敗法や治水・灌漑事業などが、どのような目的を持って為されたか考察している。 (評価資料)：ワークシート、史料読解

10 本時の指導目標

倭寇の出現と活動についてモンゴル（元王朝）との貿易と明王朝との貿易の違いから理解する。また、室町幕府（足利義満）が倭寇の取り締まりに応じる形で日明貿易が実現し

た背景について考察する。そして、倭寇の特色を理解し、倭寇の活動の意義について考察する。

11 本時の展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 (5分)	【単元の基軸となる問い】 室町時代の社会は、どのように形成されたか。			
	【本時の問い】 倭寇はなぜ中国や朝鮮半島沿岸を襲撃する必要があったのか。			
	・本時の目標と主題について知る。	・本時の学習目標を示す。		
展開① (10分)	・倭寇が中国や朝鮮半島の沿岸部を襲撃した14世紀後半から15世紀初めの日本と中国の状況について理解する。	・日明貿易が倭寇の活動との関わりの中で始まったことを理解させる。		
展開② (15分)	・倭寇図巻を参考に、倭寇がどのような人々で構成されていたか考察する。	・倭寇に関する史料を提示して、倭寇にどのような背景を持つ人々が加わったか、考えさせる。	・倭寇の成立について、当時の国際状況をふまえて考察できている。【思考】	行動観察 ワークシート タブレット 使用
展開③ (15分)	・倭寇による襲撃が長らく続いた理由について考察する。	・倭寇と呼ばれた人々が、対馬や濟州島などに根拠地を築いたことや明王朝の政策をふまえて考えさせる。	・権力の中心地から離れた島々に根拠地を置いたことや、その略奪品などに依存していた人々の存在を考察している。【思考】	行動観察 ワークシート
まとめ (5分)	・本時についてのまとめを聞く。			行動観察 ワークシート

12 評価の目安と目標実現のための手立て

【思考・判断・表現】

A	十分満足できる	・日本列島、中国大陸、朝鮮半島と倭寇によってつながれた経済ネットワークなどの視点から、14世紀後半から15世紀初め東アジア地域を、多面的・多角的に考察できている。
B	おおむね満足できる	・倭寇が14世紀後半から15世紀初めの東アジア諸国の状況の中から形成されたことを考察できている。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	・わからない語句を確認し、個別に説明をする。 ・グループワークを活用し、他者の意見に触れる機会をつくることで考察の糸口がつかめるよう支援する。